

3つのキーワード

自然を活かし、歴史を活かし、人を活かす。



日本人が忘れてきたものを再発見する旅。

3つの目標

- 1 . 心と身体が元気になる体験型観光の推進
- 2 . 地域の魅力再発見と交流の拡大
- 3 . 人による戦略的顧客満足型観光の推進

自然を活かす

鳥が飛び交い、川には魚、平野には雑草、このあたり前の自然とうまく調和して生きていくことが最大の価値、この地域のアイデンティティー。

心と身体が元気になる体験型観光の推進

歴史を活かす

この地域の歴史・文化、その物語性はここに住む我々にも、また、訪れる人々にも感動を与えることができる。

地域の魅力の再発見と交流の拡大

延光院観音

A group of five people (three men and two women) are standing in front of a bar. The bar has a brick wall and a Guinness sign. The people are dressed in casual attire. The text '人を活かす' is overlaid in large blue characters.

人を活かす

この地域の人々が本来持っている思いやり・もてなしの心が、訪れる人にどれだけの幸福感を与える事でしょう。そんな人と人の交流を目指します。

人による戦略的顧客満足型観光の推進



1. 心と身体が元気になる体験型観光の推進

2. 地域の魅力の再発見と交流人口の拡大

3. 人による戦略的顧客満足型観光事業の推進

この3つを基本に

5つのHを提案します

心と体が元気になる体験型観光の推進

環鳥海は日本の原風景であり、環境・自然が癒しの空間となる。都会人への癒しの場の提供として疎開という表現となった。

1つ目のH (ヒーリング)

「災害無き疎開」構想

癒し

心と体が元気になる体験型観光の推進

恵まれた自然環境の中で、暮らす、食する、遊ぶことによって『こころ』や『からだ』にとっての真の『健康』を取り戻してしていくことがこの地ではできる。

豊かな水資源の中で育つ農産物など多様な『健康』を発信

2つ目のH（ヘルシー）

「安心食料基地」構想

健康

地域の魅力再発見と交流の拡大

出羽の国の時代、この地域は鳥海山という人々の心の拠り所であったと同時に、国府があった中心地であった。歴史的、文化的な必然性があるのが、この地の特色であり、地域に住む我々、また訪れる人々にも感動を与えられる。

3つ目のH（ヒストリー）

「鳥海物語」構想
魅力

人による戦略的顧客満足型観光事業の推進

家族や友人、お客さまなど大切な人が喜ぶ顔を見て、自分もうれしくなる気持ちがホスピタリティの原点。

人がもつ思いやりのある心や考え方を生かした戦略的CS（顧客満足）。この地域の持つ人のあたたかさを戦略としていく。そして、おもてなしの心を持つ地域をつなぎ全体で発信していく。

4つ目のH（ホスピタリー）

「戦略的CS」構想
満足

有機的に連携させる観光事業

幸せの定義は個々の「価値観」です。「価値観」は、各人それぞれの個人的関心から生み出されるものであり、それゆえ幸福実現へのカギとなるものです。

「ヒーリング」「ヘルシー」「ヒストリー」「ホスピタリー」「ハピネス」という5つによって『幸せの再定義』を行います。

5つ目のH（ハピネス）

「幸せの再定義」構想

5H

ポイント1

歴史や物語を楽しむ

地域特性や歴史を活かし、統一感のあるストーリーの整理が大事になってきます。



物語・脚本

キー1

非日常との出会い

地域特性、歴史を重視したストーリーには、時には肝をぬく感動的な非日常的な発見があります。



日常の中の非日常

キ-2

地域の独自性を強調し、他の地域との差別化
(only one)を目指します。



差別化

ポイント2

観光戦略プロジェクトの立ち上げ
ストーリーの繋げ方や、PR戦略を練るプロジェクトチームを結成。



キー1

ストーリーに沿った特産品の開発や様々な事業の持続性が確保されるように市場調査、実行可能性調査が求められます。



キ-2

ストーリーの効率的な発信を考えていかなければなりません。



キ-3

ストーリーによって繋がれたイベントなどを開催。



ポイント3

市民参加

計画策定の初期の段階から、『行動主体となる地元の人々』・企業等の参画を求め、関連計画や事業への提案等により、効果的で実効性のある計画策定を目指します。



参加・参画・協働

キー1

ストーリーに関連する周辺都市や観光地の関係者を積極的に巻き込んでいきます。



キ-2

既存施設等の観光資源としての発見、有効活用を考え
新たな付加価値の付与や新たな視点で検討します。



既存活用

キー3

ストーリーに沿ったアクセス道路の整備やハード整備も、もてなしの心と共に欠かせません。



ハード整備

キ-4

当地域のパブリックアクセス向上のために、魅力的な拠点空間への整備、アプローチ形成などを提言します。



アクセス

ポイント4

適宜適切な計画の見直し

活動の過程で得られた課題・問題点をフィードバックし、計画は適宜適切見直していく必要があります。

